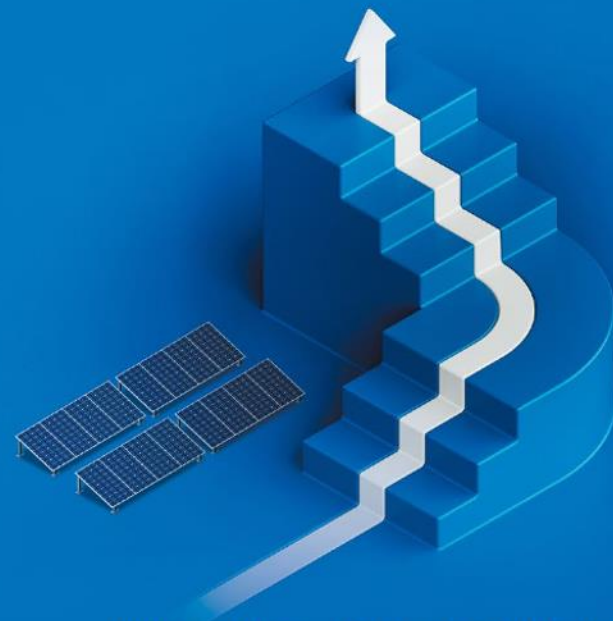


項目	内容
太陽光発電設備の点検・保守	太陽光発電設備の点検・保守を行う。点検・保守の記録を管理する。
太陽光発電設備の点検・保守	太陽光発電設備の点検・保守を行う。点検・保守の記録を管理する。
太陽光発電設備の点検・保守	太陽光発電設備の点検・保守を行う。点検・保守の記録を管理する。
太陽光発電設備の点検・保守	太陽光発電設備の点検・保守を行う。点検・保守の記録を管理する。
太陽光発電設備の点検・保守	太陽光発電設備の点検・保守を行う。点検・保守の記録を管理する。
太陽光発電設備の点検・保守	太陽光発電設備の点検・保守を行う。点検・保守の記録を管理する。
太陽光発電設備の点検・保守	太陽光発電設備の点検・保守を行う。点検・保守の記録を管理する。
太陽光発電設備の点検・保守	太陽光発電設備の点検・保守を行う。点検・保守の記録を管理する。
太陽光発電設備の点検・保守	太陽光発電設備の点検・保守を行う。点検・保守の記録を管理する。
太陽光発電設備の点検・保守	太陽光発電設備の点検・保守を行う。点検・保守の記録を管理する。



機器交換から蓄電池併設まで 徹底解説！太陽光発電所 バリューアップ術

稼働から10年以上経つ太陽光発電所が増えるなか、長期安定稼働を念頭に、いかに収益性を高め、資産価値の向上を図るか、改めて再考すべき時が来たのだ。というも、機器の経年劣化が進行して発電量は少なからず低下している。そのうえ、ケーブル盗難が多発し、保険を活用できない状況下、盗難対策を怠れば事業性は悪化しかねない。

その一方で出力抑制が全国に広がった。すでに九州の発電事業者は当初の収益計画通りに事業が成り立たない事態に直面している。そこで本誌は、既設の太陽光発電所の価値向上に資する*バリューアップ。に迫った。

具体的な手法を細かく解説する。(本誌・榎澤志、岡田浩一)



FIT後も見据えて

陽光発電所向けのO&M事業も展開し、これまで培ったリパワリングに関する知見を活かしていく構えだ。

既設の太陽光発電所を長期安定的に発電する電源へと価値を高めていくバリューアップは、結果として再生可能エネルギーの主力電源化に繋がる点において意義は大きい。それだけにバリューアップを支援する会社もあつて、たとえば、東京センチュリーと東京ガスエンジニアリングソリューションズ、京セラコミュニケーションシステムとの3社共同出資で設立されたA&Tmはその1社だろう。

同社は、太陽光発電所のAM（資産管理）業務やO&M業務を受託しており、現在AMとO&Mを合わせた受託実績は700MW超に及ぶ。同社の澤井創一社長は、「太陽光発電所の事業期間は長く、その間に様々な制度改正や自然災害などが起こり得る。我々はそのなかでも安定的な運用を続け、収益を最大化できるように支援している」と語る。

る。

PCS交換の提案も始めているようで、同社テクニカル・マネジメント本部エンジニアリング部の溝淵佑介部長は、「集まったデータを分析しつつ、ストレインダの構成を変えたり、影の影響の最小化を図ったりもする。いずれにしても中長期の事業性を勘案したうえで提案している」と話す。

リパワリングやリプレース（建て替え）を適宜実施しながら発電事業を長く継続していく。そのなかで発電量の改善や維持管理費用の低減、安全性の向上を図る取り組みも発電所の価値を高める試みだ。そうしたバリューアップ術は多岐に亘り、近年多発するケーブル盗難への対策もその一つと言える。

A&Tm取締役の山崎真企画本部

長は、「適切な手入れを継続すれば、FITの売電期間終了後も長く使い続けられるという発想が重要だ」と強調する。

これから注目すべきバリューアップ術は、蓄電設備

の併設だろう。蓄電設備を併設できれば、変動性再生エネルギー出力変動を補填する調整力を兼ね備えた安定電源になり得る。これも、FITという卸電力市場に連動した制度の登場と出力抑制

の拡大を背景に本格普及の可能性が高まっているのだ。次頁から、PCSや太陽光パネルといった機器の交換から蓄電設備の併設まで、具体的なバリューアップ術を解説する。

